



Title	彙報
Author(s)	
Citation	懐德. 1969, 40, p. 99-101
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90477
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報

懷德堂座談會

出席者全員

○昭和四十四年五月十二日 理事田中健二氏退任。

○春季講座 五月二十六日（月）より三十一日（土）まで、本會及び大阪大學文學部主催、朝日新聞社後援で、大阪大學醫學部四階第二講堂に於て、毎日午後六時半より八時まで、第三十七回懷德堂講座開講、聽講者延二百二十名。

演題と講師

論語の一面

「孔門の若き秀才たち」 大阪大學 木村英一先生
藤井竹外 神戸女大 北村學先生

杜甫の世界 四天王寺 黒川洋一先生
建安文學について 神戸大 伊藤正文先生

黃山谷の詩 京都産大 倉田淳之助先生
古典語と現代語 大阪大學 宮地裕先生

（堂友會記事）

演題と講師

明治時代の大坂の工業 阪大教授 宮本又次先生

明治時代の書における傳統と革新 京都美大 教授 中田勇次郎先生

森鷗外の翻譯について

—即興詩人から— 阪大教授 川口朗先生
明治期の民衆教育 阪大教授 駒田錦一先生
大阪會議前後 阪大教授 梅溪昇先生

昭和四十三年十月十二日 懐德堂記念會の恒祭に參列奉仕した。同日懷德三十九號發行。

十月二十七日 會員田中吉太郎氏死去。氏は多年聽講生として、講座に列して居られたが老衰の故にて他界された。惜むべきことである。

十月三十一日 維持會員澤美枝女史より御好意により金五千

圓也の寄附を受く、感謝に堪えません。

十一月一日 會員山口正男氏より金參萬圓也の寄附を頂いた御好意を感謝すると同時に維持會員に推舉した。

十一月十日 堂友會秋季見學會を行う。

梅溪先生の御指導で、尼崎の古寺、史蹟の見學をした。先づ如來院で寺寶及び古文書を見學し、大覺寺、本興寺、金昌寺など順次見學し、各寺では極めて丁重なる歓待を受けた。御好意を厚く感謝す。因の如來院は梅溪先生の御本地である。當日寒風烈しく會員の肌を冷やした。參加會員三十餘名

十一月二十二日 會員梅溪昇氏より金五千圓也の寄附を受けた。御好意に對して謹んで謝意を表します。

四十四年三月十三日 委員桐本梅之助氏死去。

氏は多年委員として熱心に會の仕事に御盡力下さつたのであるが、數年來の持病のために藥石の効なく幽冥境を異にされたことは遺憾に堪えません。當會のため期待する事の多かつたのに今は空しく溫容に接し得なくなつたことに對して深く哀悼の意と表します。

四月六日 春季見學會開催、折柄開催中の日本國寶展を京都國立博物館の塚本館長の御盡力により團體見學した。國寶三百八十五點を一堂に陳展してあつたのを觀賞した。しかし混雜甚だしく十分の成果を擧げ得なかつたことは殘念であった。參加者五十數名。

七月十九、二十日 夏季見學會を伊勢地方に催す。十九日八時五分上六發、十時伊勢市に着、それより神宮司廳の鈴木庄市

先生の御指導により豐受大神宮に參拜し、ついで豐宮崎文庫本を見學、ついで皇太神宮に參拜した。内外兩宮とも御垣内拜禮した。記念すべきことである。後神樂館で御神樂を奉奏した。ついで林崎文庫を見學、羅山の孝經碑や、宣長の歌碑などを見た。ついで神宮文庫で、特別、貴重書籍及び國寶玉篇又は大鹽平八郎獻本などを身近に見學し得て、一同の喜びは大きかった。その後宿所の朝熊山金剛證寺に着く。寺は五百五十五メートルの高さがあるので涼氣を感じたが、たまたま今度は勞音の野外演奏とかで、靜寂なる靈域を一夜中かき亂したのには閉口した。ために一同の安眠が妨げられたのは、まことに殘念であった。翌朝奥の院、八大龍王山や、富士見臺など散策して國寶殿を拜観して志摩の鳥羽港に下り、時間を利用して散步見物して、汽車で瀧原驛つき、千古の老杉が亭々として天を靡す靜かな瀧原宮の神域に參入、清冽などど川の水に禊して幽遠な境地の玉砂利を踏んで、神鎮まります瀧原宮、瀧原並宮に參拜した。この宮は皇大神宮が五十鈴川邊に鎮ります前四年程假に宮居と定め給いし所である。その神々しさは西行も如何に詠みたらんと思ふ。それより松阪の鈴の屋遺蹟に行く。時間外にも拘らず、保存會理事山田勘藏氏のこんせつな講話を聞き、古事紀傳板木などの遺品を觀賞して、解散した。參加者三十四名。因に今回の見學に多大の盡力を拂われた山口正男氏に深甚なる謝意を表す。

正誤表

三十九號九十六頁上段十四行目 小島安之助は中島安之助に
下段新入會員の中、高内徳雄は宮内徳雄の誤につき訂正

會員動靜

死 亡 田中吉太郎、桐本梅之助
入會者 河口清太郎、岡崎精郎、板東圭子
退會者 米田幸雄

座談會誌上參加

堂友會員 長澤薰治

今日はたいへんなごやかな會合をお催し頂きまして、皆様の
懐舊談を拜聴致しますことは、誠に感激に堪へません。是は甚
だ失禮な申様であります。同じ文學の道に精進して知見を廣
めんとなさつて居られる方々に對し、實に親近感をいだく者で
あります。就きましては勝手な申様で有りましても御許しを願
ひ度いと思ひます。若し失言でありましたら、取消すにやぶさ
かではありませぬ。

皆様は終戦前の懷德堂の復原を望まれるや、切なるものがあ
ると存じます。時恰も萬國博覽會の準備が着々と進行しつつあ
ります。此のテーマの一つに取り入れられてある教育、或は學校
のことは、時宜を得た施設と考へます。此の跡地利用の事に就
ては、當路の責任者は勿論のこと、事業參加の諸會社各位に於
ても、種々苦心せられ居ることであります。此の好機會をとら
へて吾々の念願を訴えて、懷德堂を徳川藩政時代から傳統ある
學問の大坂のシンボルとして後世に傳えることは喜ばしいこと
と存じます。

此構想を練るに當つては、都心を離れるのは惜むべきではあ
りますが、便利の良い處では土地を求めるのは困難であります

す。成可構圖を大きくなつて建物内部の變更或は少々の移轉等
は止むを得んことと存じます。

此の青寫真採用に成功致しますれば、後の年々の經營經費に
就ては一般的寄附に俟つこととして、博覽會終了後の時期を見
計つて運動を開始するのが良いと信じます。之れを聽講生の聲
として發揚し、所期の目的を達成し、社會に貢獻し、懷德堂の
名をして益々光輝あらしめるならば、やがては先賢先儒並に諸
先生及關係の諸賢に對する報恩の道かと思ひます。(昭和四十
二年秋季講座「懷德堂座談會」(十月二十一日)紙上參加)

(九八頁下段より) 一ヨーロッパ八ヶ國訪問記)

疾驅する沿線の風光美も東洋とは大きく異なり、極めて美しい
田園が廣がり、雜草は一切眼に入らず、風に靡く牧草は光り、
遙かに廣く纖毛をしきつめたように燃えたつグリーン、伊太利
政府が三年前巨額の投資により完成した「太陽の道」は、日本
のハイウェイやモーテルにもよく似て旅人われわれに幸ひを與
へ、十七世紀以前の古城も懷しく、時速百廿キロで正午過には
ローマに着く。映畫「終着驛」の近くのホテル・プレデシント
で晝食を喫し、今日の最大の目的かの有名なバチカン王宮シテ
イを訪問、豪莊華麗を極めた大理石づくめの廻廊や廣場の噴水
を賞で、世界のカトリック教總本山のサン・ペトロ大寺院内部
に入る。二千年前を想起すれば、ミケランゼロやレオナルド
・ダウンチの巨匠達がその當時青寫真を作り、一世紀もかけて
建築したと云ふ。正にローマは一日にして成らず、の言葉の通
りただ讚嘆するのみ。何世代も受繼がれ完成した建物等、然も
一分の歪もなく大理石で積上げ、神や王の石像の影刻に磨きを
かけた永久のメモリアル。(記念堂)

日本も今一步先んじて居ればと切齒扼腕、慨嘆すること久
し。次にサカル・デ・マルミ少年院を訪問し、擔當官に接見、
青少年のデスカッショントを行ひ、パリに向ふ。